



ポートランド日本人学校だより

# わかば

2016. 11. 12

第16-29号

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm>

毎週火曜日更新

## 『第37回海外子女文芸作品コンクール』入賞!

『第37回海外子女文芸作品コンクール』の審査結果が、海外子女教育振興財団のホームページと、「海外子女教育」11月号に発表されました。

今年度は、4万921点もの作品が集まったそうです。(作文=4807点、詩=3340点、短歌=7930点、俳句=2万4844点)

特に、海外に長期滞在している子どもや、アジア地区からの優れた作品が目立ったようで、「移民問題」を身近なテーマとしてとらえ、自分なりの考えをまとめた内容が印象に残ったりしたそうです。本校からは、小学部2年生~中学部3年生262人対象のうち、合計285人・516点(作文56点、詩56点、短歌72点、俳句332点)もの作品を出品しました。このようなたくさんの応募作品の中から、本校では、下記の子どもたちが受賞されました。

おめでとうございます。今回の受賞を励みとして、今後益々、作文や詩、俳句作りに精進してください。



作文部門 優秀 小6 石井 理奈

おめでとうございます!

『日本から学ぶ笑顔』

詩部門 佳作 小2 鈴木 玲奈

『ベットにねているどうぶつ』

俳句部門

佳作 小6 石井 理奈 【拍手浴び 卒業の兄 胸を張る】

佳作 小6 下村 恒平 【晴れて来て 緑がいっぱい せみも鳴く】

佳作 小6 鈴木 飛勇 【土の上 ダイヤみたいな 霜柱】

佳作 小6 メルツ アンディ 【母さんは あさがおよりも 早起きだ】

ベットにねているどうぶつ  
鈴木 玲奈

わがしのベットには  
へびがねていた  
にいちやんのべつ  
かえりがねていた  
まのベツには  
まのベツには  
ぱのベツには  
たがねていた  
おもしろからいら

## 日本から学ぶ笑顔

石井理奈

この前、ドーナツ屋に行った時、注文した物が売り切れで、「どのくらいできますか」と聞いた。すると、店員は面倒くさそうに後ろの店員に聞いてからふり向き、「七分」

舌打ちをしてはき捨てるように店員は言った。

「ではお願いします」

と言って会計をして、いすにすわって待った。長いカラフルなつめ。長くおろしたかみ。ガムもかんでいたその女性の店員はとてもやる気がなさそうだった。十分ぐらい経って、その店員がこちらを見た。目が合うと、店員はあごをしゃくり上げた。そして、ドーナツの乗った皿をドンとカウンターに投げつけるように置いた。私の目を見たまま、またあごをしゃくり上げた。それはまるで

「ほらよ、持っていけ」

と言っているようだった。

これが日本だったら、かみの毛を結んで、つめを短かくして、

「いらっしやいませ！」

と明るく言ってくれるだろう。

でき上がったら、

「お待たせしました」

と言ってドーナツをわたしてくれたと思う。

こういうことをよく経験するが、少しいやな気分になる。

ファストフードの店で順番を待っている客にアメリカでは、そっぽを向きながら、

「ネクスト」

とぼそつと言うのをよく見る。笑顔はなく、声が低い。

日本では、

「次のお客様どうぞ」

「何になさいますか」

などと言ってくれる。もちろん笑顔で、声が高く、きびきびしている。

アメリカは、フレンドリーと言われているが、サービスの場では、そうでない場合が多い。店で欲しい物の場所がわからなくて、店員に聞いても、

「7番の列にあるよ。」

などと言うだけで示してはくれない。

日本人は内気ではずかしがり屋だといわれているが、お店の中では、そうではない。とても明るく、やさしく、質問にも答えてくれる。

アメリカ人はみんな、笑顔はとても素晴らしい。笑顔を美しくするために、子供のころからきょう正している人が多い。笑顔がどんなに大事かを知っているはずなのに、日ごろあまり見られないのが不思議だ。高級レストランや高級ホテルで働いている人は笑顔で対応しているだろうが、それはお金が支払われているからかもしれない。

一方、日本では高級なところはもちろん、コンビニやファストフード、だがし屋さんまでお客様に自然な笑顔で対応してくれる。これは、アメリカでは信じられないことだと思う。

六年生の国語の教科書の「笑うから楽しい」という単元を勉強した。笑顔を作ると自然と楽しい気持ちになれる、という内容だった。日本の人は、笑顔を作っているだけではなく、心から仕事を楽しんでいるのだ。私もそれを見習って、いつでも感じよく、笑顔で人と関わられる様になりたいと思う。

